

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18530580

研究課題名 (和文) エピソード記憶においてさまざまな環境情報が引き起こす
文脈依存効果の実証的比較研究研究課題名 (英文) Empirical comparison of context-dependent effects of
various environmental information in episodic memory

研究代表者

漁田 俊子 (ISARIDA TOSHIKO)

静岡県立大学短期大学部・教授

研究者番号：40161567

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・実験心理学

キーワード：エピソード記憶，環境的文脈，自由再生

1. 研究計画の概要

(1) 本研究の目的

さまざまな種類の環境的文脈 (environmental context) のエピソード記憶におよぼす機能を、実験を通して調べ、実証的データにもとづいた環境的文脈機能の分類整理を行うことである。このため、さまざまな環境的文脈がどのような機能を持つのかを実験によって同定し、それぞれの環境文脈機能を実証的に整理分類する。環境的文脈としては、これまでの研究例が多い4種類 (①場所, ②BGM, ③背景色, ④匂い) を取りあげる。

(2) 本研究の予想される結果と意義

①場所文脈と複合文脈の機能は異なると予測される。事実、反復時の文脈多様性の効果が、複合文脈と場所文脈では正反対の結果を生みだしている (漁田・漁田, 2005a)。

②BGM 文脈については、本研究代表者と分担者が共同で実験し、文脈手がかりの有無と学習時間効果が交互作用しないという結果を得ている。これは、本研究申請時には、学会発表の段階であり (漁田・漁田, 2005b), 論文化していなかったが、論文化し、楽曲の熟知価も調べる。

③背景色文脈は、他の環境的文脈とは異なる性質を持つと予測される。背景色文脈は、記銘

リスト全体が1種類の背景色で提示されるとき、文脈依存効果が生じないのに対して (漁田・漁田, 2002), その他の文脈は、文脈依存効果が生じるのである。

④匂い文脈に関しては、再生成績が文脈に依存することは見いだされているが、エピソード記憶現象との交互作用や、反復効果との関係はまったく研究されていない。匂いは、古くから記憶手がかり効果が注目されている。匂い単独でエピソード定義文脈としての機能を発揮できる可能性が期待できる。

2. 研究の進捗状況

①場所を含む複合文脈, ②BGM 文脈, ③背景色文脈, 匂い文脈についての実験を行った。

①については、比の法則で新近性効果が生じる条件下 (IPI = RI = 30 秒) で、複合文脈変化の効果を調べた。その結果、複合文脈変化は新近性効果に影響しないが、爆発音による局所的な文脈変化は影響することを見いだした。

②については、BGM として使用する楽曲の熟知価が、BGM 文脈依存効果に影響するか否かを調べた。その結果、熟知価の高低にかかわらず、BGM 文脈依存効果が生じることを見いだし

た。

③については、3項目あるいは6項目を1背景色のもとで同時提示した場合に、文脈依存効果が生じるか否かを調べた。その結果、いずれの条件でも、背景色文脈依存効果は生じなかった。また、背景色による群化は明確に生じないが、同時提示された項目相互の群化がより顕著であった。3項目条件では、背景色手がかりが存在するときに、再生数と群化スコア(ARC)とに有意な相関が得られた。

一方、他の環境的文脈が偶発的文脈として機能するのに対して、背景色は局所的文脈として機能するとされている。そこで、複数の項目を同時提示したとき、背景色変化が文脈効果に与える影響を調べた。その結果、1画面に3項目を提示すると、背景色の変化するだけで文脈効果が生じることを見いだした。

④について、匂いの有る条件同士(4種の匂い対)と学習時間効果を調べた。その結果、匂い文脈は有意でなく、学習時間は有意、交互作用が有意だった。そこで、下位分析を行ったところ、4秒条件で文脈の単純主効果が有意、異文脈条件で学習時間の単純主効果が有意であった。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。(理由)環境的文脈として取り上げた①場所、②BGM、③背景色、④匂いの4点のうち、2006-2008年度におよそ3.5点の実験を終了し、匂い0.5を残すのみとなった。

4. 今後の研究の推進方策

残された実験を実施する、また、匂い文脈(嗅覚刺激)・背景色文脈(視覚刺激)・BGM文脈(聴覚刺激)のエピソード記憶に与える影響を比較し、4年間の研究成果をまとめる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3件)

(1) 漁田俊子・漁田武雄・林部敬吉 (2008).

偶発学習および意図学習の自由再生におよぼす BGM 文脈依存効果 認知心理学研究, 第5巻, 第2号, 107-117. (査読付き)

(2) Takeo Isarida, & Toshiko K. Isarida (2007). Environmental context effects of background color in free recall. *Memory & Cognition*, Vol. 35, No. 7, Pp. 1620-1629. (査読付き)

(3) Takeo Isarida, & Toshiko K. Isarida (2006). Influences of environmental context on the recency effect in free recall. *Memory & Cognition*, Vol. 34, No. 4, Pp. 787-794. (査読付き)

[学会発表] (計 6件)

(1) 酒井徹也・漁田俊子・漁田武雄 . 複数項目の同時提示における背景色の文脈効果 (4) 日本心理学会第71回大会発表, 2008年9月19日, 北海道大学.

(2) 漁田武雄・漁田俊子. 楽曲の熟知性がBGM文脈依存効果におよぼす影響 日本認知心理学会第6回大会, 2008年5月31日, 千葉大学.

(3) 酒井徹也・漁田俊子・漁田武雄 . 複数項目の同時提示における背景色の文脈効果 (2) 日本認知心理学会第5回大会, 2008年5月31日, 千葉大学.

(4) Furutani de Oliveira, M. A., Sakai, T., Isarida K. T., & Isarida, T. . Context effects of a set of items simultaneously presented against a background color (3) 日本認知心理学会第5回大会, 2008年5月31日, 千葉大学.

(5) 漁田武雄・漁田俊子 . 自由再生における背景色文脈効果と学習時間効果の関係 日本認知心理学会第4回大会, 2006年8月2日, 中京大学.

(6) 漁田俊子・漁田武雄 . 意図学習の自由再生における BGM 文脈依存効果 日本認知心理学会第4回大会, 2006年8月2日, 中京大学.